

令和2年度第2回小牧市母子保健推進協議会議事録

日 時	令和2年9月25日(金) 午後1時30分から
場 所	小牧市保健センター 2階 大会議室
出 席 者	<p>会 長 林芳樹会長 副会長 山本恒子副会長 委 員 竹内友康委員、兼子正巳委員、山崎和子委員、 森島厚子委員、近藤江里子委員、 上圓幸子委員、今枝陽子委員、古井恵子委員</p> <p>事務局 保健センター所長 泉重雄 保健センター所長補佐 野口弘美 母子保健係 三枝尚子係長、榊崎千里主任、 後藤奈津子保健師、澤野萌保健師、 野口絵美子保健師、 安立麻希子保健師、木田歩香保健師 早瀬未紗保健師</p>
欠 席 者	三輪茂美委員、村瀬佳子委員、川崎由美子委員、 伊藤加代子委員
会議の公開	公開
傍 聴 者	0人
次 第	<p>1 開会 2 報告 (1) 生と性のカリキュラム＝小学校・中学校版＝の推進 について 令和元年度小学校・中学校における取り組みにつ いて (2) 生と性のカリキュラム＝乳幼児・親・地域版＝の推 進について (3) 「発達障がいを持つ子どもとその親の支援のあり 方部会」の取り組みについて</p>

	<p>3 協議事項</p> <p>(1) 「小牧市の親子の現状から親の自己肯定感を高める取り組み」について</p>
--	---

1 開会

(所長)

本日はご多用の中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから、令和2年度第2回小牧市母子保健推進協議会を開催いたします。私は、本日の司会を務めさせていただきます、保健センター所長の泉と申します。

本日欠席のご連絡ですが、三輪委員、村瀬委員、川崎委員、伊藤委員から頂いております。上圓委員は遅れられるとの報告をいただいております。

また、小牧市民病院の旭委員の代理で古井委員にご出席いただいております。

それでは、会に先立ちまして林会長より、ご挨拶いただきます。

(会長)

本日は悪天候の中ご足労いただきまして、ありがとうございます。早速ですが、令和2年度第2回母子保健推進協議会を始めさせていただきます。

(所長)

ありがとうございました。

この会議につきましても、公開となっておりますので、事務局で会議録を作成し、ホームページにおきまして公開させていただきますのでよろしくお願いいたします。また、発言委員名も公開させていただきますので、よろしくお願い致します。

それでは、本日の資料の確認をさせていただきます。会次第、資料1、資料2、資料3、資料4、資料5-1、5-2、5-3、5-4となっております。以上となりますが、お手元にお揃いでしょうか。

現在のところ傍聴希望者はありませんが、愛知総合福祉看護専門学校の学生3名が見学しますのでよろしくお願い致します。それでは、これより議事進行を会長にお願い致します。林会長、よろしくお願い致します。

2 報告

(会長)

では今回は報告事項から始めます。

(1) 生と性のカリキュラム＝小学校・中学校版＝の推進 令和元年度小学校・中学校における取り組みについて、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

小牧市生と性のカリキュラム＝小学校・中学校版＝の推進についてよろしくをお願いします。お手元の資料1をご覧ください。

小牧市では子どもたちの命と性をめぐる実態から、学校保健教育研究会と母子保健推進協議会が連携し、「小牧市生と性のカリキュラム」作成に取り組み、平成19年度から市内の小中学校でカリキュラムが実践されています。また、平成27年度からは高等学校においても生と性のカリキュラムを推進しています。

昨年度学校と連携した生と性のカリキュラムについては表のとおりです。

小学2年生とその保護者が対象の「いのちの学習」では命の大切さを知り、かけがえのない自分を大切にできるということを目的に「いのちの成り立ち」や「からだの仕組み」、「自己肯定感」などについて助産師などが授業を実施しています。小学校についてはほぼ定例化しつつあり、すべての小学校で実施させていただいております。また、学校公開日に開催することで、保護者の方にも受講していただいております。

中学3年生を対象とした「素敵な大人になろう～性感染症の予防～」では性感染症についての知識を持つとともに、交際のあり方や相手に思いやりを持つことの大切さに気づくということを目的に保健師が9校中7校で実施させていただいております。残りの2校については、養護教諭が担任とクラス単位で実施されるなど、それぞれの学校に合わせたやり方で全ての中学校で実施されています。

また、高等学校では望まない妊娠や性感染症についての知識を持つとともに、自分や相手の生き方を大切にす気持ちをはぐくむことを目的に授業を実施致しました。各学校との打合せにより、学校によって対象学年や内

容は検討し、実施しています。

小学校・中学校の取り組みについては山崎委員よりご説明いただきます。

(山崎委員)

小学校と中学校の取り組みについてです。資料2にまとめてありますので、お目通しください。

昨年度よりも実施が減っているのは、コロナの影響で学校が3月から休校になり、年度末に計画していた学校が未実施になってしまった為です。本校は休校前に事前調査は実施できていたので、事前調査の結果を何らかの形で還元したいと思い、保健だよりにまとめて、該当学年に配布するなど工夫しました。各学校も何らかの工夫がされているのではないかと思います。小学校2年生と中学校3年生については、保健センターと連携しての指導が定着してきておりまして、良い連携ができてきているのではないかと思います。今年は例年通りの指導とはいかないですが、工夫しながら指導を続けていけると良いと思います。小学校においては保護者の方にも参加していただくことは効果が大きかったです。

1ページ目の一番下に△で書いてあるところですが、養護教諭だけで実施しているものではないのですが、養護教諭が中心となって生と性のカリキュラムを推進している学校が多いので、他の先生方との温度差が出てくる場合もあるようです。小牧市として母子保健推進協議会で検討して作っているカリキュラムですので、小牧市全体で取り組んでいる生と性のカリキュラムであるということをお他の先生方にもご理解いただけるように、いろいろなところから働きかけることを続けていけると良いと思います。以前の母子保健推進協議会で、学校以外の委員さんから、「大切な指導なのでどのような形でも続けていってほしい」というお声をいただいて、皆様から支えられて励まされているように感じましたので、今年度もできるような形でやっていきたいと思います。その他、振り返りや感想なども記載してありますので、ご覧ください。以上です。

(会長)

ありがとうございました。続きまして、(2) 生と性のカリキュラム＝乳幼児・親・地域版＝の推進について、説明をお願いします。

(事務局)

報告事項(2)生と性のカリキュラム＝乳幼児・親・地域版＝の推進について
よろしく申し上げます。資料3をご覧ください。

生涯学習課出前講座関係健康教育「育てよう！自己肯定感」を福祉施設
や地域住民向けに実施いたしました。

4か月児健診時における自己肯定感に関する健康教育は年間44回、962
名を対象に行いました。

自己肯定感獲得DVDは68枚配布しております。

4か月児健診時、第1子及び転入家庭の希望者や保健連絡員の赤ちゃん訪
問説明会、出前講座健康教育時等に希望者に配布しました。動画を見るこ
とができる方にはチラシにて案内しております。

自己肯定感獲得動画再生回数は以下のとおりです。周知方法といたしま
しては、小牧市ホームページ、乳幼児健診、保健連絡員向けの赤ちゃん訪
問学習会、出前講座等で案内チラシを配布し、周知しております。また、
親子健康手帳にも案内をのせております。

その他パパママ教室で映像を流したり、子育て支援アプリでも動画のPR
をするなどさまざまな機会を捉えてPRしています。

中学生職業人体験は7校、18名の中学2年生の受け入れを行いました。
報告は以上です。

(会長)

ありがとうございました。続きまして、(3)「発達障がいを持つ子どもと
その親の支援のあり方部会」の取り組みについてご説明申し上げます。

(事務局)

資料4をご覧ください。平成31年度「発達障がいを持つ子どもとその親
への支援のあり方部会」の取り組みを報告いたします。

「発達障がいを持つ子どもとその親への支援のあり方部会」は、母子保
健推進協議会で、「学校卒業後に社会に適應できない子どもたちに対する援
助が必要」という意見があり、平成18年度に発足しました。

部会は、4つの柱を基としています。4つの柱とは、①子どもへの支援、
②親への支援、③関係機関との連携、④地域での理解です。

部会では主に、成長記録ノートの作成、楽育相談の開催、知恵の輪会の開催、発達障がいについて住民への周知に取り組んできました。

まず、成長記録ノートについてですが、成長記録ノートは、子どもが就園、就学、進級等の節目の際、支援者からスムーズに支援が受けられるように児の成長・発達や関わり方を綴った記録です。親も成長記録ノートを活用することで、児の姿を客観的に捉えることができ、また支援者への説明をその都度スムーズにすることができます。平成 31 年度に保健センターが作成した成長記録ノートは 73 件で、使用を開始した平成 20 年度から合計 571 件作成しました。その受け渡し先は、ほとんどがあさひ学園となっておりますが、平成 31 年度には保健センターから子育て世代包括支援センターの教室につないだ子 4 名について成長記録を作成しました。成長記録の使用が開始されて約 10 年が経ちました。保育園などでは成長記録が広まってきておりますが、幼稚園や学校ではまだ成長記録についてあまり知らないという声を聞きますので、今後も園や学校への周知を図っていきます。

楽育相談は、発達障がいを持つ子どもの保護者より、「自分たちの育児の経験を支援が必要な親子に対し、子育ての先輩として母の頑張りを認め傾聴や助言、見通しなどを伝えることで、母の不安の軽減や共感、今後の支援につなげる場を設けてはどうか」という意見があり、保健センターで試験的にサロンを平成 25 年 2 月に開催しました。その後、はおおむね月 1 回開催しており、平成 31 年度の参加者数は 13 名でした。

発達障がいについて地域の方に知ってもらうために、保健連絡員対象の赤ちゃん訪問学習会にて、育てにくい子のかかわり方について伝えました。

(会長)

ありがとうございました。これまでの説明について何かご質問、ご意見はありませんでしょうか。

3 協議事項

(会長)

続きまして、協議事項に移ります。「小牧市の親子の現状から親の自己肯定感を高める取り組み」について事務局より説明をお願いします。

(事務局)

母子保健推進協議会にて親子健康手帳交付時のアンケートや乳幼児健診の状況などから、支援を必要とする親が多いことに注目し、小牧市が目指す親の姿を自己肯定感を高めることができる親、課題解決に向けて動くことができる親とし、親の自己肯定感を高めるための方策のひとつとして、100%に近い親子に会える乳幼児健診の機会を捉え、親に向けたメッセージを届けることにしました。

令和2年度第1回母子保健推進協議会において、親の自己肯定感を高めるため健診で保護者の方にお渡しするメッセージについて様々なご意見をいただきましたが、保護者の生活背景など多様化しており、万人に通ずるメッセージは難しく、健診の場面で、「暑い中よくきてくれましたね。ありがとうございます」「寝ているお子さん抱っこして重かったですね。よく来てくれましたね」などの何気ない声掛けにより、保護者の頑張りを認め「来てよかった」と思ってもらえる健診となればと考えております。

そこで保護者の頑張りを認める声掛けをしつつ、次の健診までのお子さんとの関わりや社会資源をお伝えできるようメッセージカードを作成しました。四角で囲ってあるのは保健センターの事業、角に丸みのある枠で囲ってあるのは子育て世代包括支援センター・児童館での事業にしております。関わりについては、発達に合わせての関わりについて示しております。保護者の方には、発達について知っていただくとともに、「頑張っているより、日頃対応されている何気ない関わり、声掛けでいいですよ」ということを感じてもらい、自分の頑張りが認められるように作りました。文字が多かったりしておりますが、このメッセージカードについてご意見をお願いします。

また、保健センターでは、生と性のカリキュラム 地域版として親の自己肯定感を認めることができる機会、人が増やせるよう乳幼児健診の場以外にも、赤ちゃん訪問をしてくださる保健連絡員さんを対象とした学習会や市民対象向け出前講座などで「育てよう 自己肯定感」としてお伝えする機会を設けております。保健センター以外でも、子どもだけでなく保護者の自己肯定感を高める取り組みが地域や関係機関でなされているかと思っております。関係機関が連携し保護者の自己肯定感についても高めることがで

きるよう取り組みを広げていきたいと考えております。各部署や各団体での取り組みについてご意見をお願いします。

(会長)

ありがとうございました。事務局よりメッセージカードの説明がありましたが、今の説明について何かご質問、ご要望はありませんでしょうか。前回の母子保健推進協議会での意見をもとに検討されたようですが、竹内委員、いかがでしょうか。

(竹内委員)

特に問題になることはないと思いますので、良いと思います。

(上圓委員)

よく相談を受ける時に、お母さん方から「こんなことなのに、聞いてしまっただけ良かったのかな。」と言われることが多いです。メッセージの中に『心配やイライラなど』書いてあると、心配があつたりイライラしていないと相談してはいけないと思われる方もいらっしゃると思うので、『子育てについて気になることや心配なことなど』と、もう少しほわっとした方が、相談しやすいのではないかと思います。

(今枝委員)

親の自己肯定感を高めるということですが、先日中日新聞で、『コロナの影響で困窮が浮き彫りになり、母子家庭の18%が食事回数が減り、10%前後の世帯が家賃や水道代・電気代などを滞納、36.8%の世帯でオンライン授業に必要なタブレット端末やパソコンを持っていなかった』との記事がありました。その中で、親の声として『子どもが学校に行けなくなった。タブレットやパソコンがないため、会話に入れずいじめに近い感じ。子どもを守れていない自分が嫌で嫌で死にたい。』と書いてありました。このように、自己肯定感が持てない背景に経済的なことがあることを改めて感じました。

保健センターでの健診では、健康についてのことはフォローされていると思いますが、経済的なことの相談は小さいお子さんを連れて市役所に出

向くタイミングが毎日の育児の中でないかもしれないですし、相談先が分からないということもあるかもしれません。サービスの一環として、経済的な支援が必要な人の相談先もあると、気持ちが少し楽になれることがあるのではないかと思います。

母子家庭であっても、自動的に支援されるサービスと申請しなければ支援してもらえないサービスがありますが、どのようなサービスがあるのか、分かっていたら気が楽になることもあると思います。保健センターとは管轄が違うことになってしまいますが、お母さんに向けての情報があると嬉しいのではないかと思います。

（古井委員）

健診の時にこのようなカードをいただいて、どのような方が具体的に関わってくれるのか目で見て分かりますし、張り紙ではなく個人的にカードがいただけると、自分に目を向けてくれていることが実感できて良いと思いました。

（森島委員）

これだけのものを載せられ、保健センターの方々の思いや情熱が伝わってくるメッセージカードだと思いながら、読ませていただきました。私の気づいた点でお話しさせていただきます。

先ほども今枝委員がおっしゃられましたが、『ご相談ください』という表記があるので、相談する手立てをいくつか載せられると良いと思います。子育て世代包括支援センターでもそうですが、窓口、電話、訪問、オンラインの育児相談も始まっておりますので、そういったことが具体的に載っていると、すぐに電話を掛けたり何らかのときに思いついて連絡して下さったりということが気軽にできると思います。

先ほど経済支援の話もありましたが、双子など多胎児の方も見えますので、絵柄や内容を見ると多胎児さんにとってマイナスになってしまうといけませんので、もしできましたら多胎児用として内容や、経済的な支援の部分もお手伝いサービスや産後ケア、一時預かりも多胎児だと半分になるといったこともありますので、そういったところも多胎児用として謳っていただけると良いのではないかと思います。

1歳6か月の子のメッセージの部分で、ここだけ『時には辛いこともありますますが、いつもがんばっていますね』という表現になっていますが、「いつもと言われると、いつもではないかもしれない、私。」と思ったりするかもしれないので、この部分はなくても良いと思いました。

母と子クラブのところですが、『児童館・児童センターでは職員とお母さん方が一緒に遊びを考えて、親子で楽しい時間を過ごします。また、親子同士の交流もできますよ。』という内容を表記していただけると良いと思いました。3歳児の児童センターのところですが、0歳から18歳までの児童が対象で、ちびっこ広場とは違う特徴としては、親子が見つけた好きな遊びをのんびり楽しむことができるところが良さです。

『親子健康手帳にメッセージを書いていますか』のところですが、『書いていますか』とあると、書いていないとダメかなと思われがちかなと思うので、もう少し柔らかく『書いてみませんか』でも良いのではないかと思います。

一時預かり事業ですが、『外出等で育児することが困難な場合に』と書いてありますが、敷居が高くなると思うので、メッセージカードの中では、リフレッシュなどでも使っていただけるように気軽な使い方ができるように文面を少し柔らかくしていただけると良いと思いました。

(近藤委員)

ここまで良くまとめられたなと感心して、見せていただきました。字が多いのは感じますが、伝えようと思うと字も増えますし、短い言葉で伝えるのも難しいと思いますが、若い方であれば小さな字でも読めるかなという思いもあります。これを持ち帰って、ふとしたときに目に留まって、私を見守ってくれる人がこんなにいるんだなと感じられることがあると良いと思いました。万人の方にとというのは難しいですが、これをもとに電話がかかってきた方々に声をかけたり、健診に来られた方に声をかけていって、つながりが持てると良いと思いました。

(山崎委員)

情報量が多すぎるということが一番に思ったことです。読む人はもちろん読まれると思いますが、読むことが苦手な人のことを思うと、この字の

量を見ただけで「もういいや」となってしまいそうだと思います。伝えたいことがたくさんあるのは分かりますが、できるだけ情報を精選して、これだけはというところを絞って字を減らし、ことばを易しくして書くと良いのではないかと思います。例えば表紙の『いろいろな専門職が子育てを応援しています』と書いてありますが、専門職ということばはここにいらっしゃる方にとっては馴染みがあるかもしれませんが、一般の方にとっては硬く感じるのかなと思います。『いろいろな人が』で十分ではないかと思います。そうすると、それだけでも字が減ります。

サービスがこんなにあるということは改めて見せていただいて、こんなにたくさんあるから、必要な人が必要な時に活用していただけるように宣伝しなければならぬと思いますが、ここに全部入れてしまうのは苦しいところがあるので、その中から選ぶのは難しと思いますが、例えば小牧市ホームページをご覧くださいとか、保健センターのホームページのここに載っていますよとか、広報に載っていますとかどこを見ると詳しく分かるか、スマホで見られると一番手軽な気がします、そうやってもう少し情報量を減らす工夫がされると良いと思います。

私は、このカードで一番見てほっとする部分はこのメッセージのところですか。私に語り掛けてくれているんだなということが伝わるような形でできると良いと思います。枠を可愛らしくしてみるなど視覚的なものはとても大事ですので、そういう工夫だけでも随分変わると思います。

(兼子委員)

親にとっては子どもの成長を実感できることが一番励みになることではないかと思いました。その意味でお子さんとの関わりのところや、『メッセージを書いてみませんか』のところなどはとても良いと思って見させていただきました。

(山本委員)

このスペースの中に可愛らしく収められて頑張っておられるなど感じましたが、思いが強すぎてボリュームも大きくなりすぎているので、今まで出たご意見を参考にしていただけると良いと思います。

先ほど経済的なお話をされておられましたが、8月の自殺者数が愛知県

は全国で2番目に多く、コロナのことでとても課題になっており、知事が緊急宣言を出したところです。経済的な情報に触れる機会はひよっとするところの年代の方は少ないかもしれないので、この中にそのような項目も入っていると良いと思いますが、情報を伝える部分はホームページなどと連携するというのも良いと感じました。

いろいろな相談の仕方が増えているとのことでしたので、電話だけでなくメールなどでもできるということを入れてもらおうと「電話はちょっと…」というお母さんたちにも敷居が低くなるのかなと感じました。

(会長)

ありがとうございます。一通り意見をお伺いしましたが、追加意見がございませうでしょうか。

(今枝委員)

『親子健康手帳にメッセージを書いていますか』ということですが、私の経験で第1子の時は、メッセージを一生懸命書いたのですが、第2子以降になるとだんだん書く量が少なくなってきてしまいました。小学校・中学校で自分史など節目の時に振り返って親子健康手帳を見ることがありますが、メッセージを書いていなくて、あの時にもものすごく困りました。文章として残さなくても良いと思いますが、「交付の際に今後小学校に上がった時に振り返る機会もありますので、書けるときに書いておいてくださいね。」と教えてもらってれば、もう少し書いたのになということがありました。

(会長)

ありがとうございます。親子健康手帳の交付のときのご意見でしたので、事務局、よろしく申し上げます。その他にご意見はございませうか。

(上圓委員)

メッセージで『時には辛いことも』とありますが、『時には大変なことも』という方が良いのではないかと思います。ボリュームが多いのですが、要予約や時間などは利用したい人が問い合わせをしたときにお伝えすれば

良いと思いますので、サービスの紹介だけでも良いのではないのでしょうか。それだけでもボリュームが減るのではないかと思いますので、検討していただきたいと思います。

(会長)

他にご意見はありませんか。では、各委員のご意見をまとめて、事務局の方で検討お願いします。

(事務局)

たくさんのご意見ありがとうございました。皆様からいただいたご意見を参考に言葉を精査したりできるだけ字を減らして見やすくして、作成し健診でお配りしていきたいと思います。

親子健康手帳のメッセージですが、生と性のカリキュラムで、助産師さんが小学校2年生を対象に学校公開日に親子で性の教育を受講していただいた際に、家庭での宿題という形で親子で親子健康手帳を振り返っていただくようお願いしています。小学校では2分の1成人式もあるかと思うので、そのような機会があることもお伝えしていきながら活用していただけるようにしていただきたいと思います。

もしご意見がいただけるのであれば、保健センターとしてはこのような取り組みをしておりますが、保育園や小学校など親向けの通信などがあるのであれば、そのような情報もいただけるとありがたいですが、ご意見がありましたらお願いします。

(会長)

具体的にはどのようなことでしょうか。

(事務局)

保護者に向けての講演など、もしあればということで大丈夫です。会議後でも、何かありましたら、お声がけいただければと思います。

(会長)

よろしいでしょうか。今回の協議事項について、これ以上のご意見がな

ければ事務局に進行をお返しします。

(事務局：所長)

長時間にわたる協議ありがとうございました。次回の母子保健推進協議会は令和2年11月27日(金)午後1時30分からを予定しております。

交通事故が多発しております。安全運転で交通事故に気をつけてお帰りください。これで令和2年度第2回小牧市母子保健推進協議会を閉会いたします。ありがとうございました。